

# 教育と文化

みんなで  
考えよう  
人権・同和問題  
No. 260

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

● 問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎ 3186

## 一番言いたくないことが、一番わかかってほしいこと

「自己紹介をしてください」と言われたら、あなたは何を話しますか。私たちは、家族構成や子どもの頃のエピソードなど、自分らしさを表すたぐさんの事柄で形作られていますが、そのすべてをありのままに話せるわけではありません。相手の反応によって嫌な思いをしたり、居場所を失うようなことは、ひとまず『話さない』という選択をします。一方で、『一番言いたくないことが、一番わかかってほしいこと』でもあります。そんな気持ちが大きくなったとき、信頼できる人にだけ大切なことを打ち明けることが『カミングアウト』です。最近では、ちよつとした情報を教えるときに使われることもあります。が、本来は当事者にとって大きな覚悟を伴う、大切な告白のことなのです。

「これに対して、本人にとつて大切な事柄を、当事者が望んでもいないのに言い広める行為を『アウトティング』と言います。自分のことを、いつ、誰に、どんな方法で伝えるかは本人が決めることで、伝えることも本人の権利です。情報共有とアウトティングは、似ているようで違います。良かれと思ってしたことでも人の命を奪うことがあります。アウトティングは、された人だけでなく、した人の人生も変えてしまうのです。アウトティングによって傷つく人をなくすために、私たちにもできることがあります。それは、相手の気持ちを自分に重ねて想像することです。そうすることで『安心して打ち明けられる人』が増え、もつと自分らしく安心して暮らせるようになるはず。幸せになるために、当たり前のことを大切にしましょう。

# 郷土の文化財

伊万里・鍋島ギャラリーの名宝⑤

● 問合先 生涯学習課歴史民俗資料館 ☎ 7107

## 青磁三足付皿（鍋島焼）

今月は、青磁三足付皿を紹介します。これは、1690〜1730年代に作られた鍋島焼です。

この作品は、何度も青磁釉を重ねがけしたとみえて、濃い深緑色をしています。青磁の色を濃くするには、青磁釉をかけては焼成することを繰り返す重ねがけをして、釉薬の厚みを増すしがあります。

鍋島藩窯から出土した青磁片の中には、7回も重ねがけした例が知られています。重ねがけは、青磁の色を濃くするメリットがあるのですが、貫入という『ひび』が入ることがあるというデメリットがあります。

この作品は、どこにもひびが入っていません。献上品に疵をつけないように、念入りに作ったことが推測

されます。

口縁は、円形ではなく、ところどころをしぼったように成形されています。低い高台の外側に雲形のような足が三方につきまます。三足がついた器形は、一般的な木盃形の鍋島焼よりも献上品としてのグレードが高いとされています。

献上品ならではの工夫が凝らされた貴重な作品です。

● 伊万里・鍋島ギャラリー ☎ 2267



→ 青磁三足付皿